

# GCE Advanced Level (A レベル)

ウィキペディアから

一般に A レベルと呼ばれる、The Advanced Level General Certification of Education（上級一般教育資格；GCE）は、英国、北アイルランド、ウェールズ、カメルーン、およびほとんどのカリブ海諸島の教育機関によって提供される資格です。通常学生は Scottish Qualifications Certificate Higher and Advanced Higher をとるスコットランドの少数の教育機関（典型的には私立の料金を支払う学校）でも、同様に提供される。A レベルの学習には2年がかけられ、イギリス、ウェールズおよび北アイルランドの大学の教養課程への応募者の適応性を評価するための基準と認められています。

## 目次

- 1 カリキュラム
    - 1.1 A 級の試験の歴史 1951-2000
    - 1.2 カリキュラム 2000
  - 2 過程
    - 2.1 勉強
    - 2.2 等級と国際比較
    - 2.3 試験委員会
  - 3 利用方法
    - 3.1 英国
      - 3.1.1 大学入学
    - 3.2 国際
  - 4 受理
    - 4.1 カリブ海
    - 4.2 香港
    - 4.3 外国人学校
    - 4.4 学士号提案
  - 5 批判
    - 5.1 等級インフレ
      - 5.1.1 合格率
      - 5.1.2 拡大する論争
    - 5.2 受験生の負担
    - 5.3 予測等級制
  - 6 参考資料
  - 7 参照文献
  - 8 外部リンク（省略）
- 

## 1. カリキュラム

## 1.2. A レベルの歴史 1951-2000

1918年と1951年との間で、中途退学者に必要な主な資格はthe Higher School Certificateでした。この資格は、一連の科目を勉強することを学生に要求しました。1953年までに、何人かの学生が一つの分野が弱いために資格取得に失敗していたことが、明白になったので、単一の科目について学生を評価する検査を開発することが決められました。このようにして、学生が得意分野と興味に応じて科目ごとに受験することができるAレベル(Advanced Level)試験が生まれました。

始めのうち学生は、自分が5%ごとの段階のどの位置にいるかを教えられましたが、Aレベルは単に合格か不合格かに分けられました。しかし、1963年までに、試験を受ける学生の増加は、達成度をより細かく区別する必要があることを明らかにしました。そこで、合格した学生に等級を与えることが導入されました。等級は他の生徒と比較して、以下のように与えられました:

- A 上位 10%
- B 次の 15%
- C 次の 10%
- D 次の 15%
- E 最後の 20%
- O (通常レベル)20%

不合格 10%<sup>[1]</sup> [小差によって不合格となった候補者は、少なくともGCEのO (Ordinary) レベルにおける等級Cと等価な成績を意味するOレベル合格賞を与えられる。]

1980年代には、これらの等級は学力の標準を反映しているのではなく、単に候補者の特定の割合を示していたので、このシステムの有効性は疑問視されました。1955年から1995年への40年間に、学校に在籍している学生のパーセンテージは13%から72%まで達しました。したがって、標準を確立するために各群の固定パーセンテージを使用することは、さらに意味がなくなってきました。<sup>[2]</sup>

1987年には、等級BとEのために特定の基準を定めて、次に固定のパーセンテージに応じて他の等級を分割した新システムが導入されました。最低等級のためにOレベルを与えるのではなく、新しい「N(合格に近い)等級」が導入されました。1988年には、GCSE試験がOレベルの代わりに導入されました。Aレベルの等級別に対する批判は続きました。そして、カリキュラム2000が導入されたとき、各等級に特定の基準を持たせることが決まり、「N」等級が廃止されました。2003年には、英国の国会の査問会は、その時点におけるAレベルの等級は、相対基準でもなければ、絶対基準でもなく、むしろそれら2つの要素を合わせた「柔軟な絶対基準」と考えるべきだと述べられました。<sup>[3]</sup>

80年代の終わりと2000年の間に、Aレベルは、2年の期間の最後に試験を課す直線的のコースから、モジュール型のコースへの変化が徐々に起こりました。2000年までに、試験を標準化し、モジュール化<sup>[4]</sup>によって学生により広い選択幅を提示する、強い教育的理由がありました。また、30%におよぶ学生が完了あるいは合格しないという線形的コースの非効率性に基づいた実用的な問題もありました。<sup>[5]</sup>

## 1.2. カリキュラム 2000:

2000年9月のカリキュラム2000の導入に続いて(翌年、2001年1月に始まったASレベル試験と、次の年に行われたA2試験を含む)、現在、A級試験は、2年にわたって学習された4モジュール(自然科学は6モジュール)によって構成されます。通常は、2つのモジュールが最初の年に評価され、「ASレベル」(Advanced Subsidiary level, 古いASレベル(Advanced Supplementary level)と混同しないこと)と呼ばれる独立した資格を構築します。さらに2つのモジュールが2年目の終わりに評価され、それは「A2」を構成します。A2モジュールそれ自身は、資格と見なされませんが、完全なAレベルを得るには、同じ科目のASとA2のモジュールの良好な成績の組み合わせが要求されます。モジュールは、**国の機関**によって採点された試験答案と国内で評価された**コースワーク**によって評価されます。

古いVCE Aレベル試験を引き継ぐ、新しい一連のGCE応用Aレベルの導入は、一般により就業向けの意味を持っています。例えば、応用ビジネスの新しいGCE Aレベル試験は、従来の理論ベースの科目である「商学」(それ自身が、Aレベル試験にある)と、より实际的、実践的アプローチが組み合わされています。この場合、AS年の必須モジュールに関しては、プロセスを単に検討するのと対照的に、候補者がシミュレートされたマーケティング企画書(モジュール1)と新人募集と市場調査のパッケージ(モジュール2)を作成することを求められます。これは、候補者に実際に理論を適用することによって、より完全な見識を示すことを、実質的に要求します。多くの大学が伝統的な科目に対立する職業科目に対して嫌悪を示すかもしれず、新たに適応される組み合わせに対する彼らの反応は今のところ不明です。しかしながら、今やその科目がより広く、より「学生にやさしい」ことを考えて、大学はこの科目が少なくとも従来の商学(その従来の様相はそんなに失われていないのだから)以下のものではないと見なすと期待される。新しいGCE応用Aレベル試験は、次の科目で利用可能です: 芸術とデザイン、ICT、ビジネス、サイエンス、および健康と社会福祉。

## 2. 過程

### 2.1. 学習

学生達がとるAレベルの数は、それぞれ異なります。公立校(学生のおよそ90%が教育される)における典型的な道は、4つの科目を勉強することです。そして次にA2レベルで3科目に減らします。ただし、4番目の科目を受験する学生もいます。通常大学入学のために必要なA級の試験の最少数は3科目です。いくつかの大学は4番目のAS科目の必要を指定します。学生が学習することができるAレベルの数に制限はなく(ただし、シンガポールでは学生達は12の「学術的なユニット」に制限され、個人の候補者についても科目の数が制限されている)、5つ以上のAレベルを得る学生もいる。既に流暢に話すことができる言語のAレベル試験を受ける、あるいは重なる内容を有するコースをとることは問題ありません。一般科目と批判的思考法(それらは特定の学習よりも、エッセイを書くために基礎的な政治思想と時事問題の把握を要求する)は、時々学生の資格の数を増やします。

多くの大学が一般科目のAレベル(**an A-level in General Studies**)を独立した科目と考えないが(したがって提示(**offer**)の一部として認められないが)、それは学生が受け取る提示に影響するかもしれません。例えば、数学、物理学およびコンピューティングの学生は、物理学学位のためにB-B-Cの提示を受け取るかもしれません。しかし、一般科目を取っている学生は、B-C-Cの提示を受け取るかもしれません。Aレベルの一般科目と異なり、学生の分析的技術を改善すること

を目的としている批判的思考法は、大学から一般により積極的な受け取り方をされます。一般科目と異なり、それは、しばしば **UCAS Tariff score** が与えられます。また、大学入学指導教員達は、競争率の高いコースを申し込むときに有利であると見なします。<sup>[6]</sup>

多くの A レベルを目指す学生が、最終学年において受験する 3 科目以外の科目を勉強しないので、A レベルによって学生の学力がより狭い分野に限定される、と批判されてきました。<sup>[7]</sup> この批判の要点は次の通りである。学生は、分野を横断して 3 つあるいは 4 つの科目のカリキュラムを取ることによってバランスを保つことができる(例えば、科学の科目、言語の科目および音楽のような「創造的」科目から 1 つずつを選ぶことができる)が、多くの場合、学生は 3 つの緊密にリンクした科目を選ぶ傾向がある(例えば、数学と物理、化学、あるいは社会学と心理学、政治)。これは、一部は大学入学資格要件のためです。たとえば医学のように、学位プログラムのために 3 つの関連した A レベル科目が必要とされることがあります。しかし、非伝統的な組み合わせは、より一般的になっています(「英国ブリティッシュ・カウンシル・オーストラリア教育」)。したがって、カリキュラム 2000 の目的は、学生が「スキルの基礎」を広げるために、異分野の科目に取り掛かることを奨励することでしたが、同種の分野を追求する傾向があります。しかしながら、付加的な AS レベルの学習が、旧システムと比較して、より広い分野を学習する機会を既に提供している、と主張する人もいます。

## 2.2. 等級と国際比較

A レベル試験の及第点は、A\*、A、B、C、D および E です。A\*等級は 2010 年の高等教育入学のために 2008 年 9 月において導入され、A2 で少なくとも 90% のスコアと、全ての A レベル試験において A を達成した受験生に与えられます。AS かユニット・レベル (**unit level**) には、A\*等級はありません。<sup>[8]</sup>

**UCAS** と **HKEAA** によれば、香港 A レベル試験は、歴史上英国の A レベル試験に即して標準化されました。一般に、英国の A 等級は、香港の A-C 等級と大略等価です。この結論は、主としてそれぞれの試験においてそれぞれの等級を達成する生徒のパーセンテージに基づきます。英国では、各科目の参加者の平均 25% が A 等級を達成しました。香港では A-C が 25% [A(4%)、A-B(10%)、A-C(25%)] であることと比較できます。**BBC** によれば、A\*を達成する学生のパーセンテージは約 8-10% です。それは、本質的に香港におけるそれぞれの科目の A-B 等級に相当します。<sup>[9]</sup>

## 2.3. 試験委員会

A レベルの試験は、一連の検査委員会を通じて処理されます。5 つの GCE 試験グループと委員会 (**British Council Australia Education UK**) があります。これらは、もとは英国の主要大学に設置されていましたが、過去 50 年の間に 5 つの非常に大きな組織に融合しました:**AQA**、**OCR**、**Edexcel**、**WJEC** および **CCEA**。これらのボードのうちいくつか (特に **Edexcel**) は、外国人学生にも A レベル試験を提供します。外国人学生に必要な GCE 資格を提供する他の大組織は **CIE** のみです。**OCR** と **CIE** は両方とも親組織であるケンブリッジ・アセスメントの下部組織です。英国では、慣習的に、学校は多数の検査委員会に登録し、A レベルの試験を「混合・適合」させて、学校の特徴に見合ったカリキュラムを得ようとしています。

## 3. 利用方法

### 3.1. 英国

A レベルは、英国における教育接続プロセス (**the Further Education Process**) の一部です。A レベルは、中等教育 (**Secondary school**) の一部として **Sixth Form institution** において 12 学年と 13 学年の学生が勉強することも可能です。これは、国の多くの地域において中等教育機関に統合されました。その一方で他の地域では個別の **Sixth Form College** があります。これは、中等教育プロセスの直接接続として通常行われます。故に、ほとんどの学生は年齢 16 歳~18 歳で資格のために勉強します。学生は、A レベルを始めるためには、その前に必要条件として、英語と数学を含む少なくとも 5 つの **GCSE** の A\*-C 等級が要求されます。

#### 3.1.1. 大学入学

最終試験の前に、A レベルに学生が大学に申し込むことがよくあるので、申込者に入学を許可するかどうか決定するとき、英国の大学(および、多くの A レベルをもつ学生を受け入れているスコットランドの大学)は、予測される A レベルの試験結果を考慮に入れます。予測は、その学生の教師によって作られるため、信頼性が低くなる場合があります。したがって、コースへの学生の受入は、通常、最低限の等級、例えば等級 **B-B-C**、の 3 つの A レベルを実際に取得することを、条件として付加されます。大学は、彼らが希望する科目を指定することができます(例えば、数学の等級 A を含む等級 **A-A-B** など)。

A レベルの等級は、時々数字のスコアに変換されます (**UCAS 大学入学システム**が有名です)<sup>[10]</sup>。例えば、UCAS システムの下では、A レベル試験の A\*等級は 140 ポイントの価値があり、A は 120、B は 100、C は 80、D は 60、E は 40 の価値が、それぞれあると見なされます。したがって、大学は、**B-B-C** を条件とする代りに申請者が 280 ポイントを達成していることを要求することがあります。これは学生により大きな柔軟性を許します。例えば、**A-B-D** を取れば、D 等級があるために **B-B-C** の必要条件を満たしていなくても、280 ポイントを達成することができます。

提示された条件によっては、3 つ以上(典型的には 4 つあるいは 5 つ)の低い等級の科目や高等音楽や **Key Skill** コースのような非学術的科目からのポイントなどの組み合わせであっても、大学に受入される場合があります。この柔軟性が利用可能かどうかは、要項の本文に、「280 UCAS ポイント」とあればおそらく可能、一方「3 つの A レベルの試験科目から 280 UCAS ポイント」とあれば、おそらく不可能です。

### 3.2. 国際試験

外国人学生に A レベル試験の国際版を供給する 2 つの検査ボードが現在あります。ケンブリッジ国際試験(**CIE: Cambridge International Examination**)と **Edexcel** です。国際 A レベル試験は広く、世界的に利用可能です。125 か国以上が、60 の異なる選択科目のプログラムを提供しています。

<sup>[11]</sup> **GCE** 資格も、世界中の雇用者と同様、多くの教育機関によって、広く歓迎されています。さらに、それは、英国の A レベル試験と等価なものとして認識されます。

英国において実施される現行の組み合わせ方式 (**modular system**) と異なり、**CIE A レベル** (通常、「ケンブリッジ A レベル試験」として知られている) は、最終試験方式を取ります。学生は

2つの主な試験、AS および A2 を、各学年の終わりに受けることを要求されます。その主な試験は、各々50パーセントの重み付けを施されて、完全なAレベルとなります。しかしながら、Edexcel Aレベルの受験生は、英国における学生と同じ試験を受けます。

## 4. 受け入れ

A/ASレベルは多くの英連邦諸国、ならびに元英連邦諸国（オーストラリア、バングラデシュ、ブルネイ、カメルーン、カリブ海国家/カリコム（カリブ共同体）、キプロス、エクアドル、ガーナ、ジブラルタル、香港、インド、インドネシア、マラウイ、マレーシア、モルディブ、マルタ、モーリシャス、ニュージーランド、ナイジェリア、パキスタン、シンガポール、南アフリカ、スリランカ、ザンビアおよびジンバブエ）においても受けられます。システムのそれぞれの違いにより、これらの試験は、一般に英国においてとられたAレベルの試験とは、内容と形式の両方に関して異なります。

### 4.1. カリブ海諸国

最近、カリブ海内では、GCE 上級レベルから CXC CAPE 検査（それを、デファクト大学の入学試験とする）へと移行しつつあります。<sup>[12]</sup> しかしながら、いくつかの大学は個別の入学試験も受けることを申込者に要求します。また、国際バカロレアとヨーロッパ・バカロレアも受理されます。

### 4.2. 香港

NARIC 研究報告で示されたように、香港では、英国のAレベル試験の等級はインフレを起こしているとの非難があり、英国のものに比べてより厳密に等級に分けるようになりました。<sup>[13]</sup> 英国のAS/A2のA等級達成率が通常25-30%であるの対し、香港の上級追加的レベル試験では、単一の試験において統計的に候補者の0.05%未満が「A」を得ている。そして、Aレベルの試験科目に関してはA等級を達成する割合は毎年1%未満です。<sup>[14]</sup>

### 4.3. 外国人学校

多くの外国人学校が、英国のシステムの利用を選択しています。更に、学生は、ブリティッシュ・カウンシルに属するような世界中の教育センターで、英国の試験そのものを受験することを選択しています。ブリティッシュ・カウンシルによれば、Aレベルの試験は、アメリカのアドバンスト・プレースメント<sup>[15]</sup>に似ています。それは、アメリカの4年制の学士過程の初年度コースと等価とされています。

### 4.4. 学士号取得

英国の大学は、彼らを受け入れる前に、申込者がAレベルの最低限の組み合わせ、あるいは他の試験制度においてそれに等価なもの、を達成していることをしばしば要求します。英国の政府は、国際バカロレアに基づいて作られた英国バカロレア<sup>[16]</sup>を導入する計画を、かつては拒絶しま

したが、ウェールズの政府はウェールズにおいてウェールズ・バカロレアを導入し、また、英国の等価なものが開発されています。<sup>[17]</sup>

## 5. 批判

### 5.1. 等級インフレ

A レベル試験システムへの最も一般的な批判は、等級インフレの告発です。報道は、29年連続した平均等級の着実な伸びに注目して、A レベル試験が一貫してより容易になっているという結論を引き出した。<sup>[18]</sup> 2007年の報告書では、ロバート・コーは、1988年と2006年との間の **ALIS 能力検査**における学生の成績を、A レベルにおいて達成された等価な等級と比較しました。彼は、同じ (ALIS) の成績を取った学生が、2006年においては、1988年においてあったより平均して2等級高い (A レベルの) 等級を達成していることを発見しました。数学の場合には、3.5等級近くの差でした。<sup>[19]</sup>

政府と教員団体は、より高い等級の達成は改善されより経験を積んだ指導方法によると主張します。<sup>[20][21]</sup> しかし、教育者とジャーナリストの一部は、変化は等級のインフレと、試験がより易しくなっているためと主張します。<sup>[22]</sup> 政府の、より高い試験結果を達成するよりの学校への圧力が、生徒に科目を理解させるためではなく、試験に合格させるための指導をすることに教育を導くと示唆しました。<sup>[23]</sup> 科目のシラバスを変えるのに試験委員会にかかる経費が高いため、彼らはシラバスの変更を躊躇します。それは、類似した試験問題が長い期間続くことに結びつき、質問を予想することを目標とした教育を可能にします。2000年には、A レベルのシステムは、A レベルのための2年間の学習期間の終わりだけではなく、各年の終わりに受験できるように変わりました。最初の年の (AS レベル) 検査の結果は、学生に1年間の学習で困難であると分かった科目をあきらめることを許し、かつより高い等級を達成するために科目を再び取り直すことを可能にした。<sup>[23]</sup> 無制限の再受験の機会を、最高点で通り抜けることを可能にし、結果を改善しました。<sup>[24]</sup> 学生はより高い等級を達成するために「より困難な」ものの代わりに「より容易な」科目を選択する傾向があると信じる人もいます。<sup>[25][26][27]</sup>

英国の大学は、A 等級のますますの増加が、能力スペクトルの最上部の学生を識別することに困難を与えると苦情を言いました。<sup>[28]</sup> C 等級は、もともとは平均的な能力を表わすように意図されました。また、それを獲得するのに、学生は、典型的にはすべての評価に亘って60%を、あるいはそれ以上を要求されました；しかしながら、今は、平均的成績はB 等級の最下辺にあります。多くの大学が、申込者を選ぶために、特定のコースのための **BMAT** や **LNAT** のような独自の入学試験を導入するか、あるいは面接を行なっています。2005年にケンブリッジ大学における入試担当部署の主任は、現行制度に対して行うべきと彼が信じる変更<sup>[29]</sup>、特に、より高度な評価 (the Advanced Extension Awards)、すなわちA レベル課程のより高度な内容に基づいたもっと挑戦的な資格についての概要を決めました。より多くの大学は、申込者の個々の学習結果を見て、彼らがどれくらい容易にその結果を達成したかを知ることが望んだ。<sup>[30]</sup> A レベルは、能力を正確に反映しない<sup>[31]</sup>、もしくは将来の学術的な成功のよい指標たり得ないのではないかと<sup>[32]</sup>、という恐れが持たれています。

#### 5.1.1. 合格率:

英国：Aレベル等級認定率（%age）（1951-1999 は省略）

	A*	A	(A*+A)	B	C	D	E	O	N	U/F	A-E	候補者
2010	8.1	18.9	27.0	25.2	23.2	15.2	7.0			2.4	97.6	853933
2011	8.2	18.8	27.0	25.6	23.6	15.1	8.5			2.2	97.8	867317
2012	7.9	18.7	26.6	26.0	24.0	14.9	6.5			2.0	98.0	861819

参照資料: JCQ 統計、BBC ニュース、a、およびガーディアン<sup>[5]</sup>、Brian Stbbs、Metro

### 5.1.2. 増大する論争

A レベルの等級に対する懸念は、2002年9月に全国ニュースになりました。オブザーヴァーは、A レベルの結果は調整されているという異議を記事にしました。合格率を実際より低く見せて、そしてA レベルがあまりに易くなっているとの意見に論駁するために、全ての成績を適当なものにしようと、学生は、彼らが当然得られるより低い点をつけられてきたと強く主張した。これはトムリンソン査問会に帰着しました。その結果、いくつかの答案は再度採点されました。しかし、1,220 の A レベルと、733 人の AS レベルの学生の成績が改善されただけでした。<sup>[33]</sup>

職員と大学によって示された、A 等級を達せたい多くの学生を識別するには不可能だとの、職員と大学との懸念に対して、また現行の GCSE 基準を反映するために、2004 年に新しい、より高い「最高の A」等級(GCSE における A\*等級のような)が可能かについて論争が行われた。<sup>[34]</sup> 2010 年において見られるように、より高い等級を持ち込むことが、基準の整合性を保つために等級の境界を上げるより、はるかによい考えであることで一般に合意されました。また、A の上の A\*等級を設けることが、最も有能な学生を伸ばす一方、他の者には彼等にふさわしい等級を達成できるようにする可能な方法であると提案されました。この目的のために、最優秀賞 (The advanced extension award) の使用は増加しました。<sup>[35]</sup> 2010 年の A2 試験から、最も高い A レベルの等級は A\*になります。それは、すべての科目が A 等級で、A2 試験における全科目の平均 UMS が 90%であることが求められる。<sup>[36]</sup>

数学についての 2004 年 9 月の改良、それは難しすぎるとの声に従ったものだが、易しくしすぎの批判を招いた。<sup>[38]</sup> 変更の結果、3 つのモジュールの内容(Pure1-3)は 4 つのモジュール(Core1-4)に広げられました。これによって、学生が同じ資格を取るのに、より少ない学習で済むことになるかと強く主張されています。数学のシラバスをよりポピュラーにするさらなる改革は両極端の意見に遭遇しました。<sup>[39]</sup> 支持者は、数学をとる学生における衰微傾向を逆転させるだろうと賞賛し、一方で、他の人は、数学は「まだ信じられないほどに困難だ」と懸念する。

ビジネス界における A レベル試験のイメージを改善する試みが進行中であるにもかかわらず、多くの財界人は、中途退学者のための資格の適切さに対する懸念を表明し、英国において国際バカロレア機構の採用を代わりに促すことを始めています。2009 年、懸念はマイク・レイク卿 (BT グループの会長)、テリー・リーヒー卿 (テスコの会長<sup>[40]</sup>)、およびクリストファー・ヘント卿 (グラクソ・スミスクラインの会長) によって投げかけられました。<sup>[41]</sup> いくつかの学校はまた、より高い料金でケンブリッジ pre-U<sup>[42]</sup>を、A レベル試験に変わる選択肢として提供するように移行しました。<sup>[43]</sup>

### 5.2. 評価の負担

科目のモジュール化の増加によって、英国で試験を受ける若者達が費やす時間は、かなり増加



しました。2010年の報告書は、19才までに子ども達は評価されるべき学校教育の全ての年限を通過しているであろうと推定されました。<sup>[44]</sup> 「評価の負担」についてのそのような批判の結果、2008年9月以来ずっと、候補者は、ほとんどのAレベルのために、6つではなく4つの試験を受けます。<sup>[45]</sup> これは、ASの2モジュールと、A2の2つのモジュールが、大多数のAレベルのためにあることを意味します。しかしながら、これはすべてのAレベルにはあてはまりません：生物学、ヒト生物学、化学、物理学、エレクトロニクス、地質学、音楽、ウェールズ語および科学は、Aレベルのために6単位、つまりASとA2のためにそれぞれ3単位、そして600UMSが維持されています。数学(上級数学、続上級数学、統計、および応用数学ASを含む)は、2008年の改革において構造上変わらないでしょう；それは600UMS(ASのための300UMS)でとどまるでしょう。しかし、それは新しいA\*等級と「Stretch and Challenge provision」を含んでいるでしょう。同様に、ベンガル語、現代ヘブライ語、パンジャブ語、ポーランド語、アラビア語、日本語、近代ギリシア語、聖書のヘブライ語、オランダ語、グジャラート語、ペルシア語、ポルトガル語およびトルコ語は2単位、ASのための1つおよびA2のための1単位、で残るでしょう。<sup>[46][47][48]</sup> しかしながら、それらはAレベルのためには200UMS必要、に変わるでしょう。中国語は同様に200UMS、2単位から3単位になるでしょう:ASで2単位、A2で1単位。それは、カリキュラム2000以来、奇数の単位数を持つ最初のAレベルです。<sup>[49]</sup>

ケンブリッジ大学は、それが2単位、あるいは3単位であっても「易しい」と思われるAレベル科目をとっている応募者を採用することは到底ありそうもないと警告しました。同大学は、会計、設計と技術、映画研究、情報通信技術、メディア研究、写真、そしてスポーツ研究を含む「不適当な」と考える科目のリストを挙げました。<sup>[50]</sup>

モジュラー・システムを嫌って、多くの学校が今代替の国際バカロレア機構卒業証書資格を提供します。そのコースはより多くの科目、課外活動、「知識に関する理論」として知られている哲学的認識要論、さらに候補者の選択による任意の主題についての拡張エッセイ(an extended essay)を要求します。現在のAS/A2システムと異なり、国際バカロレア機構はモジュラー・システムに基づきません。国際バカロレア機構によって扱われる学位プログラムは、認定された大学前教育プログラムです。<sup>[51]</sup> 前英国首相トニー・ブレアは、最近、すべての郡において1校の公立学校がAレベルの代替選択肢として国際バカロレア機構卒業証書プログラムを提示するべきと提案しました。<sup>[52][53]</sup>

### 5.3. 予測等級制

可能な改良は、結果を受け取った後に受験生が大学に申し込む方法で、事後資格審査申込みシステム(PQA)と呼ばれるものになるでしょう。<sup>[54]</sup> この方式は、申込者、特にその成績が低く見込まれる低収入の家庭の申込者にとって、より公平になるだろうと主張されました。しかしながら、より最近のUCAS報告書は、予測等級(predicted grades)の信頼度は家計所得と協調して低下するが、この方式が、依然として低所得層のための過剰予測効果に今までどおり結びつく場合があることを示します。予想された等級のちょうど45%は正確です。47%は過剰予測、そして9%は過小予測です。<sup>[55]</sup> 最近のUCAS協議会は、大学、学校および授与機構からの反対に従って、PQAの実施を拒否しました。<sup>[56][57]</sup>

## 参照

- Advanced Level Forum (A Level)
- Past Papers of Advanced Level (A Level)
- List of Advanced Level subjects
- General Certificate of Secondary Education An entry qualification
- Ordinary Level An entry qualification that has been phased out in the United Kingdom
- BTEC ND Is the highest level of BTEC structure and is taken by people aged 16 or over. (Equal to A levels)
- NVQ level 3
- Advanced Vocational Certificate of Education (AVCE)
- Advanced Extension Award (AEA)
- Higher (Scottish) (Scottish university entrance qualification)
- Advanced Higher (Scottish) (Scottish equivalent to A level)
- Hong Kong Advanced Level Examination (HKALE)
- Singapore-Cambridge GCE Advanced Level (equivalent examination in Singapore)
- Malaysian Higher School Certificate (better known as "STPM", an equivalent examination in Malaysia)
- Sri Lankan Advanced Level
- Matura or Maturità (similar qualification in some European countries)
- Baccalauréat (similar qualification in France)
- Abitur (similar qualification in Germany and Finland)
- Advanced Placement Program (similar qualification in the United States)
- International Baccalaureate (IB) Diploma (alternative examination found across the world)
- European Baccalaureate (examination used mainly in the European School system)
- Bagrut (similar qualification in Israel)
- Matriculation Certificate
- Sixth Term Examination Paper (STEP – used by the University of Cambridge and the University of Warwick for admissions to study mathematics at undergraduate level)
- Leaving Certificate[58][59]

## References

- 1.^ Choppin, Bruce (1981). "Is Education Getting Better?" (PDF). *British Educational Research Journal* 7 (1): 11. Retrieved 30 September 2010.
- 2.^ *Techniques for Monitoring the Comparability of Examination Standards*, edited by: Paul Newton, Jo-Anne Baird, Harvey Goldstein, Helen Patrick and Peter Tymms Ofqual; chapter 2 (Kathleen Tatersall) p.76. Retrieved 30 September 2010
- 3.^ House of Commons Education and Skills Third Report, 2003 accessed 27 July 2011
- 4.^ See the Dearing Report and Guaranteeing standards (DfEE, 1997)

- 5.^ See the Audit Commission/Office for Standards in Education. (1993). Unfinished business: Fulltime educational courses for 16- to 19-year-olds. London: Her Majesty's Stationery Office. See also Higher Education, Curriculum 2000 and the Future Reform of 14-19 Qualifications in England, Ann Hodgson, Ken Spours and Martyn Waring (Institute of Education) p.4. Retrieved 30 September 2010
- 6.^ Learning to think the right way. BBC. 22 March 2004.
- 7.^ "Q & A: Overhauling the exam system", 16 July 2003. Retrieved 12 June 2006.
- 8.^ [http://www.rewardinglearning.org.uk/regulation/accreditation\\_and\\_monitoring/gce\\_grading.asp](http://www.rewardinglearning.org.uk/regulation/accreditation_and_monitoring/gce_grading.asp) CCEA guide on introduction of A\* grade. Retrieved 20 August 2010.
- 9.^ "[1]" BBC
- 10.^ "The UCAS Tariff", UCAS. Retrieved 5 June 2006.
- 11.^ "[2]"
- 12.^ Caribbean Examinations Council Report. Reforming the Examination System. House of Commons, 26 March 2003. Retrieved 12 June 2006.
- 13.^ "A research study into comparison of grades achieved in the Hong Kong HKCEE and HKALE with the GCSE and British GCE A levels", conducted by NARIC UK
- 14.^ [3] PDF
- 15.^ - EducationUK - British Council USA
- 16.^ Baccalaureate could replace A-levels. 21 January 2003.
- 17.^ The English Baccalaureate - Schools
- 18.^ A-level passes rise amid university places pressure, 18 August 2011 accessed 18 August 2011. A-level results 2011: pass rate hits new record high, 18 August 2011 accessed 18 August 2011
- 19.^ Robert Coe, Changes in standards at GCSE and A level: Evidence from ALIS and YELLIS, CEM, Durham, 2007, p.6 accessed 29 July 2011
- 20.^ " Education and Skills - Third Report", House of Commons, 26 March 2003. Retrieved 12 June 2006.
- 21.^ "Minister attacks A level critics", BBC News, 17 August 2004. Retrieved 5 June 2006.
- 22.^ "So are A levels getting easier?", BBC News, 16 August 2001. Retrieved 5 June 2006.
- 23.^ a b "A levels are not what they were", BBC News, 15 August 2005. Retrieved 5 June 2006.
- 24.^ "A level variations 'nothing untoward'", BBC News, 23 December 2002. Retrieved 5 June 2006.
- 25.^ "A level pupils urged to spurn 'soft' subjects", EducationGuardian.co.uk, 12 August 2005. Retrieved 11 June 2006.
- 26.^ "Media Studies. Discuss", BBC News, 18 August 2005. Retrieved 11 June 2006.

- 27.^ "Pupils favouring 'easier' A level subjects", EducationGuardian.co.uk, 10 February 2006. Retrieved 11 June 2006.
- 28.^ "Call for 'more rigorous' A levels", BBC News, 3 June 2004. Retrieved 5 June 2006.
- 29.^ "Cambridge seeks harder A levels", BBC News, 11 May 2005. Retrieved 5 June 2006.
- 30.^ "Universities to see breakdowns of A level results", EducationGuardian.co.uk, 10 August 2005. Retrieved 11 June 2006.
- 31.^ "A levels 'poor test of ability'", BBC News, 13 August 2002. Retrieved 5 June 2006.
- 32.^ "Education and Skills - Third Report", House of Commons, 26 March 2003. Retrieved 12 June 2006.
- 33.^ "[4]" BBC News, 'Timeline: A level Grading Row', 31 October 2002. Retrieved 5 January 2007.
- 34.^ "A++ grade 'will select the best'", BBC News, 18 October 2004. Retrieved 5 June 2006.
- 35.^ "Advanced exam too tough by half", BBC News, 19 August 2005. Retrieved 11 June 2006.
- 36.^ "Highest A level grade is set at 90%", EducationGuardian.co.uk, 2 July 2007. Retrieved 13 August 2007.
- 37.^ "AS-level maths syllabus revised", BBC News, 11 October 2002. Retrieved 12 June 2006.
- 38.^ "Maths A level revival plan approved", BBC News, 6 August 2003. Retrieved 12 June 2006.
- 39.^ "'Split' over A level maths reform", BBC News, 5 February 2006. Retrieved 12 June 2006.
- 40.^ "British Telecom Boss Sir Michael Rake and Tesco Chief Executive Sir Terry Leahy slam school system", Sky News, 14 October 2009. Retrieved 2 January 2010.
- 41.^ "Tesco boss criticises UK education system", Times online 14 October 2009. Retrieved 2 January 2010
- 42.^ <http://www.cie.org.uk/qualifications/academic/uppersec/preu>
- 43.^ UCAS - Tariff tables
- 44.^ Tony Ashmore & Malcolm Trobe, Assessing Assessment - Politics or Progress?, National Education Trust, 2010 accessed 27 July 2011. See also ASCL Policy Paper 48: The Future of Assessment, 2008 and The Telegraph, School pupils 'spend a year taking exams' 6 Jan 2010 accessed 27 July 2011
- 45.^ "Exam watchdog unveils plans for A level reform", EducationGuardian.co.uk, 29 March 2006. Retrieved 11 June 2006.
- 46.^ "OCR A level changes overview"
- 47.^ "Edexcel new A level specifications"
- 48.^ "AQA new A level specifications"
- 49.^ "Edexcel A level in Chinese: Specification for teaching from September 2008"
- 50.^ University 'soft' A level warning <http://news.bbc.co.uk/1/hi/education/7174848.stm>

- 51.^ "What is the Diploma Programme". ibo.org. Retrieved 5 August 2009.
- 52.^ Clark, Laura (19 May 2009). "Fears of 'two-tier' education system as pupils taking rival exam to A-levels rise by 40%". Daily MailOnline. Retrieved 5 August 2009.
- 53.^ "School Level Exams in the UK". British Council Australia Education UK. Retrieved 28 May.
- 54.^ "Plans to change university entry", BBC News, 22 May 2006.
- 55.^ "Estimating the Reliability of Predicted Grades", University and Colleges Admission Service (UCAS). Retrieved 17 July 2007.
- 56.^ > "Cambridge International AS and A Level". Cambridge International Examinations. Retrieved 27 May.
- 57.^ "A Level Forum". ALevelForum.com. Retrieved 10 May.
- 58.^ ["GCE O & A Level Exams." British Council. British Council, n.d. Web. 27 May 2011.  
<<http://www.britishcouncil.org/pakistan-exams-gce.htm>>. "GCE O & A Level Exams"]. British Council. Retrieved 27 May.
- 59.^ "A-Levels Introduction to A-Levels and AS-Levels". A-Levels.co.uk. Retrieved 27 May.